

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	2	教科書(出版社)	論理国語(筑摩書房)、文学国語(筑摩書房)
科目	現代文Ⅰ	必修・選択	必修	副教材等	知的複眼思考法―誰でも持っている創造力のスイッチ(講談社)、新版 意味から学ぶ頻出漢字3000(第一学習社)、読解評論文キーワード改訂版(筑摩書房)、こころ(筑摩書房)
単位数	2				

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。(2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての時間を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度や、生涯にわたる国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
【論理国語】 ・アイオワの玉葱 ・ファッションの現象学	・ 評論の基本的な読み方を習得する。 ・ 「共感」「ともに生きる」という視点から人間の存在についての思索を深める。 ・ 本文中の対比関係、具体例、指示表現や接続表現、論理構造等に注目して文脈を捉え、論旨や筆者の主要な見解、その根拠をつかむ。	・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を習得し、文章の中で積極的に活用している。 ・ 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深め、積極的に活用している。	・ 評論という文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を正確に把握している。	・ 論理の展開に沿って筆者の主張を正しく理解し、わかりやすくとめようとしている。	4月～5月 ・ 中間 ・ 考查
【文学国語】 ・ 山月記	・ 小説の基本的な読み方を習得する。 ・ 漢文体が持つ独特のリズムを味わいながら、場面の展開と登場人物の心理の変化を的確に捉える。 ・ 作者が描こうとしたテーマについて考え、小説を自分自身の問題に引きつけて読む姿勢を養う。	・ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 文体の特徴や修辞などさまざまな表現の技法について、体系的に理解し効果的に使用している。	・ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて吟味し、文章全体の特徴を正確に把握している。 ・ 登場人物の心情や行動の意味を読み取り、作品のテーマを的確に理解している。	・ 学習の見通しをもって言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。 ・ 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、粘り強く言語活動を行う中で、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	5月～7月 ・ 期末 ・ 考查
【文学国語】 ・ こころ	・ 小説の読み方を深める。 ・ まとまった分量のある小説を読み、場面の展開や登場人物の心理の変化を捉える力を養う。 ・ 「先生」と「私」の関係性を通して、人の心の不可思議さについて考えを深める。	・ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを十分に理解している。 ・ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について十分に理解を深めている。	・ 「こころ」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察を深めている。 ・ 「こころ」の内容や解釈を適切に踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を十分に深めている。	・ 本文の内容を踏まえて、自分の考えを深めるとともに、考えたことを的確にまとめようとしている。	9月～10月 ・ 中間 ・ 考查
【文学国語・論理国語】 ・ こころ ・ 現代日本の開化	・ 「こころ」の読解を深め、主題の把握を通して人の心の不可思議さについて考えを深める。 ・ 評論の読み方を習得し、論理の展開を捉え、日本の近代化の特質について理解する。 ・ 「こころ」と「現代日本の開化」を関連づけて読み、近代日本の精神的課題を考察する。	・ 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを十分に理解している。 ・ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句を習得し、文章の中で正しく活用している。	・ 「こころ」の内容や解釈を適切に踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を十分に深めている。 ・ 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を正確に把握している。	・ 本文の内容を踏まえて、自分の考えを深めるとともに、考えたことを的確にまとめようとしている。 ・ 論理の展開に沿って筆者の主張を正しく理解し、わかりやすくとめようとしている。	10月～12月 ・ 期末 ・ 考查
【論理国語】 ・ 「である」と「する」こと ・ 人新世における人間	・ 評論の読み方を習得する。 ・ 長文の評論を読み、二項対立を基本とした論構成を理解する。 ・ 日本の近代化の特質とその問題点を論じた内容を、現代の課題として捉え直す。 ・ 「人新世」という概念を通じて、現代社会における人間のあり方を考察する。	・ 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解し、正しく活用している。 ・ 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	・ 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を正確に把握している。 ・ 本文の内容を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。	・ 本文の内容を踏まえて、自分の考えを深めるとともに、考えたことを的確にまとめようとしている。	1月～3月 ・ 学年 ・ 期末 ・ 考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	2	教科書(出版社)	高等学校古典探究 (数研出版)
科目	古典探究 I	必修・選択	必修	副教材等	九訂版 体系古典文法 (数研出版)、四訂版 Key&Point古文単語330 (いづな書店)、三訂版 体系漢文 (数研出版)、基礎からのジャンプアップノート 古文読解演習ドリル改訂版 (旺文社)、古典文法習得のための助詞マスターノート (数研出版)、古典文法習得のための敬語マスターノート (数研出版)、漢文重要語マスターノート (数研出版)、トータルサポート新国語便覧 (大修館書店)
単位数	3				

1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>(2)生涯にわたる社会生活にける他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を高めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての時間をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
○古文分野 説話 ・大江山(十訓抄) ・兼盛と忠見(沙石集) ○漢文分野 故事 ・江南橋為江北枳(説苑) 思想 ・侯官之害(韓非子)	説話文学「大江山」「兼盛と忠見」を通して、教訓や人間の心理を読み取る力を養い、文語のきまりや漢文訓読の基礎を習得する。また、故事「江南橋為江北枳」や思想「侯官之害」を読み、古典に表れた先人の知恵や考え方を理解し、現代に通じる教訓を考察する。	説話「大江山」「兼盛と忠見」や故事「江南橋為江北枳」、思想「侯官之害」を読むために必要な文語のきまりや漢文訓読の基礎について理解を深めている。	「読むこと」において、説話文学に表れた教訓や人間心理を読み取り、故事や思想から先人の知恵や考え方を捉えて内容を解釈するとともに、現代に通じる教訓について自分の考えを深めている。	積極的に説話や故事・思想の文章を多面的・多角的な視点から考察し、学習課題に沿って古典に表れた先人の知恵を現代の視点から捉え、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	4月～5月・中間考査
○古文分野 歌物語 ・暹ひ路の関守(伊勢物語) ・渚の院(伊勢物語) 随筆 ・大納言殿参り給ひて(枕草子) ・あだし野の露(徒然草) ・九月二十日のころ(徒然草) ○漢文分野 思想 ・性善(孟子) ・性悪(荀子)	歌物語「伊勢物語」を通して、和歌と散文の関係や和歌の修辞法を理解し、王朝文化に親しむ。随筆「枕草子」「徒然草」では、作者の感性や無常観を読み取る。また、「性善」「性悪」の思想を比較し、人間の本性についての東洋的な考え方を多角的に考察する。	「伊勢物語」の和歌と散文の関係や和歌の修辞法、「枕草子」「徒然草」の随筆の特徴、「性善」「性悪」の思想を読むために必要な文語のきまりや漢文訓読について理解を深めている。	「読むこと」において、歌物語における和歌と散文の関係を踏まえながら王朝文化に親しみ、随筆から作者の感性や無常観を読み取るとともに、「性善」「性悪」の思想を比較し人間の本性について多角的に考察している。	積極的に歌物語や随筆の文章、和歌を多面的・多角的な視点から考察し、東洋的な人間観について今までの学習を生かして学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	5月～7月・期末考査
○古文分野 日記文学 ・東路の道の果て(更級日記) ・物語(更級日記) 物語 ・光源氏誕生(源氏物語) ・藤壺の入内(源氏物語) ・小柴垣のもと(源氏物語)	日記文学「更級日記」を読み、作者の物語への憧れや心情の変化を読み取る。「源氏物語」では、「光源氏誕生」「藤壺の入内」「小柴垣のもと」を通して、平安時代の宮廷文化や人間関係を理解し、登場人物の心理描写や物語の構成について深く考察する。	「更級日記」や「源氏物語」(光源氏誕生・藤壺の入内・小柴垣のもと)を読むために必要な文語のきまりや歌語法について理解を深めている。	「読むこと」において、「更級日記」から作者の物語への憧れや心情の変化を読み取り、「源氏物語」から平安時代の宮廷文化や人間関係を理解し、登場人物の心理描写や物語の構成について深く考察している。	積極的に日記文学や物語における登場人物の心情や行動を捉え、平安時代の宮廷文化を踏まえながら文章を多面的・多角的に考察し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	9月～10月・中間考査
○漢文分野 史伝 ・瀧門之会(史記) ・四面楚歌(史記) ・項王自刎(史記)	「史記」の「瀧門之会」「四面楚歌」「項王自刎」を通して、項羽と劉邦の対立と滅亡の歴史を読み解く。漢文訓読の技能を高めるとともに、人物の行動や決断から、リーダーシップや人間の生き方について多面的に考察する。	「史記」の「瀧門之会」「四面楚歌」「項王自刎」を読むために必要な漢文訓読の技能や文語のきまりについて理解を深めている。	「読むこと」において、項羽と劉邦の対立と滅亡の歴史を読み解き、人物の行動や決断からリーダーシップや人間の生き方について、内容や解釈を自分の知見と結び付けて多面的に考察している。	積極的に史伝から読み取った項羽・劉邦の人物像を踏まえ、リーダーシップや人間の生き方について文章を多面的・多角的な視点から考察し、学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	10月～12月・期末考査
○古文分野 歴史物語 ・花山天皇の出家(大鏡) ・三船の才(大鏡) ・道長の豪胆(大鏡) ○漢文分野 思想 ・無為之治(老子) ・曳尾於塗中(莊子)	歴史物語「大鏡」を読み、花山天皇の出家や藤原道長の人物像を通して、平安時代の政治や権力構造を理解する。また、老荘思想「無為之治」「曳尾於塗中」を学び、処世や生き方についての東洋的な価値観を考察し、現代社会への示唆を得る。	「大鏡」(花山天皇の出家・三船の才・道長の豪胆)や老荘思想「無為之治」「曳尾於塗中」を読むために必要な漢文訓読の技能や文語のきまりについて理解を深めている。	「読むこと」において、「大鏡」から花山天皇の出家や藤原道長の人物像を通して平安時代の政治や権力構造を理解し、老荘思想から処世や生き方についての東洋的な価値観を考察し、現代社会への示唆について自分の考えを深めている。	積極的に歴史物語や老荘思想の文章を多面的・多角的な視点から考察し、今までの学習を生かして平安時代の政治や東洋的な価値観について学習課題に沿ってものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	2	教科書(出版社)	詳説世界史(山川出版)
科目	世界史探究α	必修・選択	必修選択	副教材等	ニューステージ 世界史詳覧(浜島書店) 詳説世界史 10分間テスト(山川出版社) 世界史用語集(山川出版社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さを深める。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
世界史へのまなざし 第1章 文明の成立と古代文明の特質	<ul style="list-style-type: none"> おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。 オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。 オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアやエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。 南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。 資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 文明の誕生、オリエント文明、南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 	4月～5月・中間考査
第1章 文明の成立と古代文明の特質 第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> 中国の風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。 騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 漢の支配体制の変遷を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアの風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したことを理解している。 アメリカ大陸の各地で、それぞれの地域環境に適応した文化・文明が発展したことを理解している。 中央ユーラシアの厳しい環境に適応した遊牧民やオアシス民の生活のありさまや、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。 秦、漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。 南北アメリカ文明に共通する特徴、とくにユーラシアやアフリカの古代文明とは異なるものを多面的・多角的に考察し表現している。 資料をもとに、中央ユーラシアの人々の動向が、世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 資料をもとに、秦、漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中国の古代文明について、南北アメリカ文明、秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 	6月～7月・期末考査
第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> 遊牧民の動きと魏晋南北朝の動乱との関係について理解する。 唐の勢力圏の広がりや唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 魏晋南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民との関わりもふまえたうえで理解している。 隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに、魏晋南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 魏晋南北朝の動乱、東アジア文化圏の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 	7月～9月・中間考査
第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 第4章 西アジアと地中海周辺の世界形成	<ul style="list-style-type: none"> 南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとの仏教の発展について理解する。 ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 バルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。 インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。 アケメネス朝、バルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。 それまで仏教やジャイナ教が盛んだったことをふまえたうえで、ヒンドゥー教が社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現している。 資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 南アジアで生まれた諸宗教、インド古典文化とヒンドゥー教、イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 	10月～12月・期末考査
第4章 西アジアと地中海周辺の世界形成 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	<ul style="list-style-type: none"> ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ローマ共和政の特徴や地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 民族大移動の経緯やビザンツ帝国の繁栄について、同時期の西ヨーロッパと比較したうえで理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいたったのか、またローマ人の文化にはどのような特徴があるのかを理解している。 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 資料をもとに、ローマが地中海世界を統一し、それを維持できた理由を多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 古代ギリシア、古代ローマ、ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	2	教科書(出版社)	『詳説日本史 日本史探究』(山川出版社)
科目	日本史探究α	必修・選択	必修選択	副教材等	『新詳日本史』(浜島書店) 『日本史用語集』(山川出版社) 『ゼミナール日本史』(浜島書店) 『最新 詳説日本史史料集』(実教出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

現在の「日本」の面のありかたは、第二次世界大戦や明治以降に突然できたものではありません。長い年月の中で積み上げられてきた遺産を基礎にして現在の「日本」は成り立っています。「日本史」を学ぶということは、私たちの住む「日本」という社会の文化と伝統を学習すると同時に、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養うことでもあります。「日本」とはなにか、「私は何者なのか」ということを問うことなのです。以上の問題意識を前提として、第2学年では原始・古代・中世を中心として学習します。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
日本史学習では、語句(人名・事件など)をただ丸暗記しても、歴史そのものを理解することはできません。「何が原因なのか」「どんな影響を及ぼすのか」「どんな意味があるのか」を常に考えましょう。	日本史学習で大事なことは、暗記ではありません。歴史の流れと歴史事象の因果関係を理解することです。そこで、一つの事件についてその背景や内容、与えた影響などを文章にしてもらうような作業を取り入れます。	必ず復習をするように心がけてください。その際、授業で取り組んだ課題について自分でもう一度考えるとともに、問題練習をすることや、復習を繰り返し実施することが知識を定着させる上で大切なことです。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	黎明期から律令国家の成立過程について理解し、考察内容を表現できる力を身に付ける。 ①文化の始まり ②農耕社会の成立	旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治社会や文化の特色を理解する。	自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジアおよび太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多角的・多面的に考察し、表現する。 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性を多面的・多角的に考察する。	原始から古代の政治、社会、経済、文化について、知識理解や技能を身に付ける活動や、思考・判断・表現を身に付ける学習活動について、主体的に取り組んでいる。	4月～5月・中間考查
第3章 律令国家の形成	律令国家が成立するまでの過程、律令国家の完成期における政治・経済・外交・文化等の各分野を理解し、考察する。 ①律令国家への道 ②平城京の時代 ③律令国家の文化 ④律令国家の変容	貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解する。	権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から古代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。	古代の律令国家の変容期の政治、社会、経済、文化について、知識理解や技能を身に付ける活動や、思考・判断・表現を身に付ける学習活動について、主体的に取り組んでいる。	6月～7月・期末考查
第4章 貴族政治の展開	摂関政治の成立過程と政治運営について考察するとともに、地方の実態(武士勢力の発生)も把握し、理解する。 ①摂関政治 ②国風文化 ③地方政治の展開と武士	藤原北家が権力を掌握していく過程を理解する。また、遣唐使廃止に伴う日本独自の文化についても、確認する。	社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性を多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	古代から中世に至るまでの政治、社会、経済、文化について、知識理解や技能を身に付ける活動や、思考・判断・表現を身に付ける学習活動について、主体的に取り組んでいる。	7月～9月・中間考查
第5章 院政と武士の躍進	院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。また、平氏政権の特性についても考察し、古代から中世への変化を通観する。 ①院政の始まり ②院政と平氏政権	貴族政治や土地制度の変容等をもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家、社会の変容を理解する。	武家政権の権力基盤となる土地所有に関する事項について、諸資料から考察する。	古代と中世の政治、社会、経済、文化について、比較検討しつつ、知識理解や技能を身に付ける活動や、思考・判断・表現を身に付ける学習活動について、主体的に取り組んでいる。	10月～12月・期末考查
第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。また、鎌倉時代における公武二元体制について考察する。 ①鎌倉幕府の成立 ②武士の社会	源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立について理解する。	武士と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、諸資料を読み解きながら、その根拠を考察する。	鎌倉時代を通じた武家支配の特質について、知識理解や技能を身に付ける活動や、思考・判断・表現を身に付ける学習活動について、主体的に取り組んでいる。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	公民	履修学年	2	教科書(出版社)	詳述 公共(実教出版)
科目	公共	必修・選択	必修	副教材等	フォーラム公共2026(とうほう) 公共10分間テスト(山川出版社)/ウィニングコンパス 公共・政経の整理と演習
単位数	2				

1 学習の到達目標

「社会的な見方・考え」を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
考察・選択・判断のための手がかりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を育成する。	社会の諸課題の解決に向け、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れ議論する力を育成する。	各国各国民が相互に主権を尊重し、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を育成する。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第1編 公共の扉 ○社会をつくる私たち ○人間としてよく生きる	人間は個人として尊重されるべき存在であるとともに対話を通して互いの様々な立場を理解し相互に高め合うことのできる社会的な存在であることを理解する。また、自らの価値観を形成する上で基礎となる事柄として、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れる。集団の一員として生き、他者との協働により公共的空間を創る存在であることに気づかせる。	現代の諸課題に対する解決方法や自らの選択・判断の手がかりとして、個人や社会全体の「幸福」を重視する考え方や行為の動機となる「公正」「正義」の考え方について理解している。	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく集団の一員として生き、他者との協働により公共的空間をつくる存在であることについて、多面的・多角的に考察し表現している。	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、公共的空間における人間としての在り方生き方や社会に参画する自立した主体としての自覚を深めようとしている。	4月～5月・中間考查
○民主社会の倫理 ○民主国家における基本原理	人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利、責任と義務、民主主義、法の支配などに関する考え方や法・制度などの仕組みを学習し、公共的空間における基本原理について理解させる。思考実験や具体的な事例などを通して概念的な枠組みや原理の背景にある考え方について考察させる。	各人の意見や利害を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的空間をつくる上で必要であることを理解している。	各人の意見や利害を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的空間をつくる上で必要であることを理解している。	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、人間の尊厳と平等、個人の尊重といった公共的空間における基本的な原理について理解しようとしている。	6月～7月・期末考查
第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち ○日本国憲法の基本的性格 ○日本の政治機構と政治参加 ○現代の経済社会	法規範の役割、政治・司法参加の意義、地方自治、市場経済、雇用と労働問題、財政・金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題について学習する。それらを踏まえ、各人の意見や利害を公平・公正に調整し権利や自由の保障、公正かつ自由な経済活動を通じた資源の効率的配分などの実現に向けて、協働的に考察し論議をもって表現させる。	現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報等について、適切かつ効果的に収集し、読み取りまとめる技能を身につけている。	自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察し論議をもって表現している。	よりよい社会の実現を視野に、政治・司法・地方自治・市場経済・財政・金融など、現実社会の事柄や現代の諸課題について主体的に解決しようとしている。	7月～9月・中間考查
○経済活動のあり方と国民福祉 ○国際政治の動向と課題 ○国際経済の動向と課題	国家主権、領土、安全保障、国際貢献の在り方、経済のグローバル化、各国の経済政策と相互依存関係、貧困格差など、国際社会における事象や諸課題について学習する。それらを踏まえ、国際社会における我が国の役割について理解させ、課題解決に向けて、協働的に考察し論議をもって表現させる。	国際政治・国際経済の諸課題に関する事柄が理解できている。また諸資料から自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取りまとめる技能を身につけている。	国際政治・国際経済の諸課題に関する事柄が理解できている。また諸資料から自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取りまとめる技能を身につけている。	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、国際社会における我が国の役割や経済のグローバル化と相互依存関係など現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	10月～12月・期末考查
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	本科目のままとして位置づけ、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、これまでに身につけた選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的空間における基本的原理の活用とともに現実社会の諸課題に対する関心を一層高めさせる。個人を起点として自立・協働の観点から、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究させる。	自ら選択した現実社会の諸課題について、必要な情報を収集し読み取り分析するなど、これまでに習得した知識および技能を活用して課題解決に必要な考え方を理解している。	地域の創造、よりよい国家・社会の構築、国際社会の形成へ主体的に参画し、諸課題の解決に向けて協働的に考察したり、妥当性や効果、実現可能性を指標にしたり論議をもって表現している。	よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から、それぞれが選択した現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	2	教科書(出版社)	高等学校数学Ⅱ(数研出版)
科目	数学Ⅱ	必修・選択	必修	副教材等	4プロセス 数学Ⅱ +B+C(数列 統計的な推測 ベクトル)(数研出版) 項目別学習ノート 関数、極限～数学Ⅱからの発展学習～(数研出版) 新課程 チャート式 基礎からの数学シリーズ対応 Set Up 数学演習Ⅱ IABC(ベクトル)標準編[受験編](数研出版) 他
単位数	4				

1 学習の到達目標

いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解でき、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
当該科目で扱う内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	等式や不等式について論理的に考察する力、座標平面上の図形について方程式を用いて表現したり考察したりする力、関数の局所的な変化に着目し統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式 剰余の定理と因数定理/高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 直線上の点/平面上の点/直線の方程式/2直線の関係 第2節 円 円の方程式/円と直線/2つの円 ※「第1章 式と証明」及び「第2章 複素数と方程式」第1節は、第1学年「数学Ⅰ」において、発展学習として習得済である。	○方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 ○剰余の定理や因数定理を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 ○座標式を用いて直線の性質や関係を数学的に表現し、有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ○座標式を用いて円の性質や関係を数学的に表現し、有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。 ・因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ・数直線上や座標平面上において、2点間の距離、線分の内分点、外分点の座標が求められる。 ・平行条件や垂直条件等を利用して、直線の方程式を求めることができる。 ・点と直線の距離の公式を理解して、それを利用することができる。 ・2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。	・1の3乗根の性質を活用し、種々の式の計算を適切に判断して行うことができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。 ・多項式を1次式で割ったときの余りを、剰余の定理を用いて考察できる。 ・図形の性質を証明する際に、計算が簡単になるように座標軸を適切に設定することができる。 ・円の方程式が x, y の2次方程式で表されることを理解している。 ・円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数で考察できる。 ・2円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係で考察できる。	・多項式を1次式で割る計算において、組立除法を一つの方法として活用しようとしている。 ・ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 ・2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。 ・x, y の2次方程式が常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。 ・円と直線の位置関係を、2次方程式の判別式や、円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係により調べようとする。	4月～5月・中間考查
第3章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域 軌跡と方程式/不等式の表す領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数 角の拡張/三角関数/三角関数のグラフ/三角関数の性質/三角関数の応用 第2節 加法定理 加法定理/加法定理の応用	○図形を、与えられた条件を満たす点の集合(軌跡)として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質やグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ○加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求め、図形として考察できる。 ・不等式の表す領域を図示することができる。 ・角度の表し方と度数法と弧度法があることを理解している。 ・弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 ・いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 ・加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ・2倍角、半角の公式などを利用して、三角関数の値を求めたり、等式を証明したりすることができる。	・平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 ・不等式の満たす解を、座標平面上の点の集合として与えることができる。 ・弧の長さで角を図る方法として、弧度法を考察することができる。 ・2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式、不等式の角を統一して考えることができる。	・点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。 ・周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。 ・やや複雑な三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることに取り組もうとする。 ・同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成するとそのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもち、	5月～7月・期末考查
第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 指数の拡張/指数関数 第2節 対数関数 対数とその性質/対数関数/常用対数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数/導関数とその計算/接線の方程式	○指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ○微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算ができる。また、累乗根を含む計算を、分数指数を利用して計算ができる。 ・指数関数のグラフの概形、特徴を理解し、グラフをかきことができる。 ・対数関数のグラフの概形、特徴を理解し、グラフをかきことができる。 ・正の数 $a \times 10^{-n}$ の形で表現して、対数の値を求めることができる。 ・平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを用いて、種々の導関数の計算ができる。 ・接線の方程式を求めることができる。	・指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。 ・指数関数の増減によって、大小関係や不等式を考察することができる。 ・対数 $\log_a M$ が $M = a^p$ を満たす指数 p を表していることを理解している。 ・n桁の数、小数第n位の数を、不等式で表現することができる。 ・導関数を表す種々の記号を理解して、それらを適切に使うことができる。 ・定点から曲線に接線を引きとき、接点における接線が定点を通ると読み替え、接線の方程式を求めることができる。	・累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。 ・指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。 ・指数と対数との相互関係に興味・関心をもち、 ・やや複雑な対数方程式、不等式に積極的に取り組もうとする。 ・桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ・接線の傾きと微分係数との関連を図形的に考察しようとする。	9月～10月・中間考查
第2節 関数の値の変化 関数の増減と極大・極小/関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 不定積分/定積分/定積分と面積	○導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 ○積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 ・導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。 ・不定積分の定義や性質を理解し、それらを用いる不定積分の計算方法を理解している。 ・上端が変数 x である定積分で表された関数を微分して処理することができる。 ・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。	・ $f'(a) = 0$ は、 $f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。 ・最大値・最小値と極大値・極小値の違いを、意識して考察できる。 ・不等式を、関数のグラフと x 軸との上下関係に読み替えて、考察できる。 ・微分法の逆演算としての不定積分を考察することができる。 ・上端が x である定積分を、x の関数とみることもできる。 ・面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかりて考察している。	・関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフ、4次関数のグラフをできるだけ正確にかこうとする。 ・方程式や不等式を関数の視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 ・定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単なように工夫して計算しようとする意欲がある。 ・面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。	10月～12月・期末考查
進路別にクラスを編成する。 【数学Ⅲ選択予定者】 第3章 関数 分数関数/無理関数/逆関数と合成関数 第4章 極限 第1節 数列の極限 数列の極限/無限等比数列/無限級数 第2節 関数の極限 関数の極限/三角関数と極限/関数の連続性 【数学Ⅲ非選択予定者】 「リンク数学演習Ⅰ・A+B・C(ベクトル)受験編」のBasic及びChallengeに取り組む。	【数学Ⅲ選択予定者】 ○数学Ⅲの学習の基礎とし、分数関数や無理関数の性質や、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できるようにする。 ○数学Bの応用として数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められるようにする。また、数列の極限と関連させて関数の極限について、関連して関数の連続性についても理解し、それらを様々な関数の考察に活用できるようにする。	【数学Ⅲ選択予定者】 ・分数関数の定義域や漸近線などについて理解し、簡単な分数関数のグラフをかきことができる。 ・極限についての用語や表記および∞の意味について理解している。 ・ $x \rightarrow a$ のときの関数の極限の表記、および収束する場合に成り立つ極限の性質について理解し、簡単な極限を求めることができる。 【数学Ⅲ非選択予定者】 ・基礎的な入試問題(数学Ⅰ・A及びⅡ・B・C(ベクトル))を解くことができる。	【数学Ⅲ選択予定者】 ・無限級数の収束・発散について、部分和の極限を、既習の数列の極限として捉え、語ることができる。 ・不定形を解消するなどの工夫をして式変形し、数列及び関数の極限を求めることができる。 ・数列の極限が簡単に求められない場合、はさみうちの原理を用いて極限を求めることができる。 ・中間値の定理を直感的に理解し、それを用いて解の存在について考察できる。 【数学Ⅲ非選択予定者】 ・初出問題に対して、既習事項と関連付けて考察し、問題を解くことができる。	【数学Ⅲ選択予定者】 ・方程式や不等式の考察に、積極的に関数のグラフを活用しようとする。 ・様々な数列について、n が大きくなるときに第 n 項がどのようになるかに興味をもち、積極的に調べようとする。 ・関数の右側極限、左側極限の考え方に興味・関心をもち、 ・変数 x が無限に大きくなるときの指数関数、対数関数及び三角関数の極限について、グラフを利用して理解を深めようとする。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	2	教科書(出版社)	高等学校数学B(数研出版)
科目	数学B	必修・選択	必修	副教材等	4プロセス 数学Ⅱ+B+C(数研 統計的な推測 ベクトル)(数研出版) 領域別パーフェクトスキル ベクトル(啓林館) チャート式 新課程 基礎からの数学Ⅱ+B+C(ベクトル)(数研出版) 他
単位数	2				

1 学習の到達目標

数列, 統計的な推測, ベクトルについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と社会生活の関わりについて認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
当該科目で扱う内容についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したリ, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列の規則性に着目し考察する力, ベクトルを用いて図形の性質を考察する力, 確率分布や推定, 検定の知識を用いて日常の事象や社会の事象を数学化し, 問題を解決したり考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し活用しようとする態度, 粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第1章 数列 第2節 いろいろな数列 和の記号Σ/階差数列/いろいろな数列の和 第3節 漸化式と数学的帰納法 漸化式/隣接3項間の漸化式/数学的帰納法/自然数に関する命題のいろいろな証明※「第1節 等差数列と等比数列」は, 第1学年「数学A」において, 整数の性質の関連事項として習得済である。	○和の記号Σの表し方や性質を理解し, 活用できるようにする。また, いろいろな数列について, その一般項や和を求めたり, 和から一般項を求めたりできるようにする。 ○数列の帰納的な定義について理解し, 漸化式から一般項が求められるようにするとともに, 複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また, 数学的帰納法の仕組みを理解し, 様々な命題の証明に活用できるようにする。	・記号Σの意味と性質を理解し, 数列の和が求められる。 ・階差数列を利用して, もとの数列の一般項が求められる。 ・和の求め方の工夫をして, 数列の和が求められる。 ・漸化式の意味を理解し, 具体的に項を求めることができる。 ・数学的帰納法を用いて等式, 不等式, 自然数に関する命題を証明できる。 ・n≧kの場合に成り立つ不等式を, 数学的帰納法を用いて証明できる。 ・ある整数の倍数であることを, 文字を用いて表現できる。	・数列の和を記号Σで表して, 和の計算を簡単に行うことができる。 ・群数列を理解し, ある特定の群に属する数の和が求められる。 ・初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 ・複雑な漸化式を, おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ・自然数nに関する命題の証明には, 数学的帰納法が有効であることを理解している。 ・数学的帰納法で証明した命題について, 別の方法で証明してそれらと比較するなど, 多面的に考察することができる。	・自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち, 自然数の3乗の和の公式を導こうとする。また, さらに高い次数の累乗の和の公式についても考察しようとする。 ・数列の規則性を, 隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。 ・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について, 考察しようとする。 ・具体的な事象の考察に, 漸化式を積極的に活用しようとする。 ・数学的帰納法を利用して, いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	4月～5月・中間考查
【発展学習】 ① 平面上のベクトル 平面上のベクトル/ベクトルの演算/ベクトルの成分/ベクトルの内積/三角形の内積 ② ベクトルと平面図形 位置ベクトル/ベクトルと図形/ベクトル方程式/点の存在範囲の図示	○向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し, 成分表示も含めて演算ができるようにする。また, 内積について理解し, ベクトルのなす角について考察できるようにする。 ○位置ベクトルについて理解し, 図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また, 図形をベクトルを用いて表せることを理解し, 基本的な図形のベクトル方程式を求めたり, ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	・ベクトルの定義を理解している。 ・ベクトルの和の計算や実数倍の定義を理解し, 式で表現できる。 ・ベクトルの平行条件及び垂直条件を理解し, 平行, 垂直なベクトルを求めることができる。 ・ベクトルの内積の定義を理解し, 内積を求めることができる。 ・点の位置を, 基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ・直線のベクトル方程式を, 媒介変数を用いて表すことができる。また, 円のベクトル方程式から, その中心の位置ベクトルや半径を求めることができる。	・ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し, 図の中から探すことができる。 ・ベクトルの和, 差, 実数倍の定義をもとに, それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 ・内積の性質を用いて, 等式を証明したり, ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 ・位置ベクトルの一意性を活用して, 線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・点が線分AB上に存在する条件を活用して, 点Pの存在範囲を求めることができる。	・ベクトルの類似性に興味をもち, 数式の演算法則との類似点を考察しようとする。 ・成分表示されたベクトルの演算法則を, ベクトルの演算法則から導き出そうとすることができる。 ・内積の性質を, 既習の知識を用いて証明しようとする。 ・三角形の中線が1点で交わることなど, 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ・図形のベクトル方程式について, 点の座標(x, y)についての方程式と関連させて考察し, それらの共通点などを見出そうとする。	5月～7月・期末考查
【発展学習】 ③ 空間のベクトル 空間の座標/空間のベクトル/ベクトルの成分/ベクトルの内積/位置ベクトル/ベクトルと図形/座標空間における図形/平面的方程式/空間における直線の方程式	○平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え, 空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また, それに関連して, 座標空間における点や図形について考察できるようにする。	・平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは, 空間においても同様に成り立つことを理解している。 ・空間ベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りで表されることを理解し, 具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。 ・座標空間における2点間の距離や線分の内分点, 外分点の座標, 三角形の重心の座標が求められる。 ・座標軸に垂直な平面的方程式が求められるようになる。 ・中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。	・空間における点の表し方と理解し, 座標平面や座標軸, 原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ・空間ベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。 ・位置ベクトルを活用して, 空間の3点が一直線上にあることを証明できる。 ・位置ベクトルの一意性を活用して, 直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ・ベクトルの内積を活用して, 空間図形の性質を証明できる。 ・球面と平面が交わることができる図形を, 連立方程式の解の集合として考察できる。	・座標空間における点の表し方を, 座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。 ・平面上のベクトルの性質などが空間でも成り立つことから, ベクトルの定義が次元によらないことに興味をもつ。 ・様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ・座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し, 座標空間についても同じ考え方で図形の方程式について考察しようとする。	9月～10月・中間考查
第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 確率変数と確率分布/確率変数の期待値と分散/確率変数の和と積/二項分布/正規分布	○確率変数と確率分布について理解し, 期待値や分散, 標準偏差などを求めることを通じて, 分布の特徴を把握できるようにする。また, 正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。	・確率変数や確率分布について用語の意味を理解し, 確率変数の期待値, 分散, 標準偏差を求めることができる。 ・同時分布の意味を理解し, 2つの確率変数の同時分布を求めることができる。 ・複雑な確率分布の期待値を, 確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。 ・確率密度関数や分布曲線の定義を理解し, 連続型確率変数について, 確率を求めることができる。 ・二項分布に従う確率変数に関する確率の計算を, 正規分布に従う確率変数で近似して求めることができる。	・試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 ・確率変数の期待値, 分散, 標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ・二項分布や正規分布の特徴を理解し, 様々な視点からとらえることができる。 ・正規分布を活用して現実のデータについて考察すること	・確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることにより, 確率分布について積極的に考察しようとする。 ・確率変数の期待値, 分散に関する種々の公式を, その定義や既知の公式を用いて導こうとする。 ・二項分布に興味・関心をもち, さいころを投げるときの具体的な事項について考察しようとする。 ・現実のデータが正規分布に近い分布になることに関心をもつ。 ・現実のデータについて考察しようとする。	10月～12月・期末考查
第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測 母集団と標本/標本平均の分布/推定/仮説検定	○母集団と標本, 標本平均について正しく理解し考察できるようにする。また, 母平均や母比率の推定, 正規分布を用いた仮説検定ができるようにし, それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	・標本平均が確率変数であることを理解している。標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ・復元抽出と非復元抽出について理解している。 ・標本比率が二項分布に従う仕組みを理解し正規分布で近似することで標本比率についての確率を求めることができる。 ・信頼区間の考え方を活用して, 母平均や母比率の推定ができる。 ・仮説検定の考え方を活用して, 日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。	・母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 ・大数の法則について理解し, 標本の大きさが大きくなる時の標本平均の分布の変化の様子について考察できる。 ・推定や信頼区間の考え方がわかる。 ・仮説検定の考え方がわかる。また, 片側検定と両側検定の違いを理解し, どちらの検定をするか正しく判断できる。	・母集団や標本の特徴を理解しようとする。 ・母平均や母比率の推定に関心を示し, 信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。 ・現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か, またその方法を採用しているのはなぜかに興味をもち, それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。 ・仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち, 現実の問題の解決に役立てようとする。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修年	2	教科書(出版社)	化学academia (実教出版)
科目	化学 a	必修	必修	副教材等	新課程フォーワードアップドル化学 (数研出版) セミナー化学基礎+化学 (第一学習社) 新課程版スクエア最新化学図説 (第一学習社)
単位数	2	選択			

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、基本的な計算技能を身に付ける。 また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 また、「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力を養う。	科学的な事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期 考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
電池と電気分解 ①電池 ②電気分解	電気エネルギーを取り出す電池の仕組みを酸化還元反応(電子の授受)と金属のイオン傾向に関連付けて理解する。電気分解ではファラデーの法則に基づく量的関係や、電気分解の工業的利用についても理解する。	電池と電気分解の仕組みについて理解している。 一次電池や二次電池の種類や特徴を理解している。 電気分解によって金属が製造されることを理解している。	電池、電気分解の各電極で起きている変化を反応式で表すことができる。 ファラデーの法則に基づく量的関係を計算で求めることができる。	電池と電気分解について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	4月 5月 ・中間 考查
物質の状態変化 ①粒子の熱運動 ②三態の変化とエネルギー ③気液平衡と蒸気圧	状態変化に伴うエネルギーの出入りや化学結合と融点・沸点の関係を理解するとともに、気液平衡や蒸気圧、状態図についても理解する。	物質の三態を粒子の熱運動と関連付けて理解している。 状態変化による熱の出入りとその熱の種類を理解している。 気液平衡状態における気体の圧力が蒸気圧であることを理解している。	状態変化における熱量を求めることができる。 蒸気圧の性質について現象をもとに説明できる。 外圧が変化したときの沸点の変化を蒸気圧の観点から説明できる。	物質の状態変化について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	6月 ・期末 考查
気体 ①気体の体積 ②結晶とアモルファス ③混合気体の圧力 ④実在気体	理想気体の状態方程式について理解し、それを利用した分子数計算についても理解する。また、混合気体に対する考え方や実在気体と理想気体の違いについて理解する。	気体の体積や温度および圧力について、ボイルの法則やシャルルの法則および気体の状態方程式を用いて求めることができる。 混合気体について分圧の法則を理解している。また、モル分率を利用して分圧を求めることができる。 理想気体と実在気体の違いについて理解している。	実験を通して、揮発性液体の分子量を求めることができる。 温度と体積の条件と蒸気圧曲線から、気体が凝縮するかしないかを判断することができる。 実在気体の理想気体からのずれについて、グラフを読み取り説明することができる。	気体の性質について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	6月 7月 ・期末 考查
固体の構造 ①結晶とアモルファス ②金属結晶 ③イオン結晶 ④分子間力と分子結晶 ⑤共有結合の結晶	化学基礎では、イオン結合、共有結合、金属結合でできた物質について学習している。それらの知識と関連付けながら固体の結晶格子の概念とそれぞれの結晶構造について理解する。	結晶とアモルファスの違いを理解し、結晶格子の概念及び結晶の構造を理解している。 各結晶の性質を理解している。 分子間力についてファンデルワールス力、極性分子間の静電気力および水素結合があることを理解している。	各結晶の単位格子において、原子半径や密度および充填率を求めることができる。 物質の沸点や融点、分子間力の観点からその違いを説明できる。	固体の構造について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	9月 10月 ・中間 考查
溶液 ①溶解とその仕組み ②溶解度 ③希薄溶液の性質 ④コロイド溶液	溶解の仕組みを理解するとともに、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また、希薄溶液の性質やコロイド溶液の性質について、身近な現象と結びつけながら理解する。	溶解のしくみについて理解している。 固体の溶解度と気体の溶解度のしくみについて理解している。 希薄溶液の性質を理解し、沸点上昇、凝固点降下の簡単な計算ができる。 浸透圧についてファントホッフの法則から求めることができる。 コロイド溶液の性質について理解している。	電解質と非電解質の溶解のしくみを説明できる。 固体の溶解度曲線から析出量を求めることができる。また、水和物の析出量も求めることができる。 気体の溶解度について、ヘンリーの法則を基に求めることができる。 希薄溶液の性質を利用して、溶質の分子量を求めることができる。また、溶質が電解質と非電解質とで性質が変化することを計算に利用できる。 コロイド溶液の実験を通して、その性質を説明できる。	溶液の性質について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	11月 12月 ・期末 考查
化学反応とエネルギー ①化学反応と熱 ②ヘスの法則 ③化学反応と光	化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れ、その熱量の変化をエンタルピー変化として記述することを理解する。また、化学反応には光の発生や吸収が伴うものがあることも、具体的な反応を交えながら理解する。	化学変化とエンタルピーの変化について理解する。また、エンタルピー変化を付した反応式をつくることができる。 ヘスの法則を理解する。 結合エネルギーについて理解する。 化学変化では、熱以外に光の発生や吸収があることを理解する。	エンタルピー変化を表した図から情報を読み取ることができる。 ヘスの法則を利用してエンタルピー変化を求めることができる。 結合エネルギーの総和から、エンタルピー変化を求めることができる。 実験を通して、水酸化ナトリウムの溶解エンタルピーと中和エンタルピーを求めることができる。	化学変化とエネルギーについて、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	1月 ・学年 末 考查
化学反応の速さとしくみ ①化学反応の速さ ②反応条件と反応速度 ③化学反応のしくみ	化学反応の反応速度の表し方とともに、反応速度と反応条件(濃度、温度、触媒)の関係や反応の仕組み、触媒の利用について理解する。	化学反応の速さの定義を理解し、表すことができる。 反応速度が濃度と温度に依存することを理解できる。 反応速度と触媒の関係について理解する。	化学反応の温度変化のグラフを読み取ることができる。また、そのグラフ(もしくは表)から平均の反応速度と平均の温度変化を求め、その関係をグラフに表すことができる。 実験結果から反応速度式を表すことができる。 温度上昇により反応速度が上昇することを粒子のエネルギー分布から説明できる。 触媒とその反応機構を説明できる。	化学反応の速さとしくみについて、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	2月 ・学年 末 考查
化学平衡 ①可逆反応と化学平衡	可逆反応と平衡状態について理解し、平衡定数を利用した量的関係の計算のしかたを理解する。	可逆反応と不可逆反応について理解する。 平衡定数を表すことができる。	平衡の移動を平衡定数から求めることができる。	化学平衡について、主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	3月 ・学年 末 考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	2	教科書(出版社)	生物(美教出版)
科目	生物α	必修・選択	必修選択	副教材等	スクエア最新図説生物 セミナー生物
単位数	2				

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
1章 生物の進化 1節 生命の起源と細胞の進化 1 最初の生物と初期の生物進化 2節 遺伝子の変化と進化のしくみ 1 遺伝子の変化 2 遺伝子の組合せの変化	生命の起源と細胞の進化に関する資料に基づいて、生命の起源に関する考えを理解する。 細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解する。 遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変化との関係を見出して理解する。	化学進化について理解している。 光合成と地球環境の関係を理解している。 細胞の進化について理解できる。 突然変異について理解している。 塩基配列とアミノ酸との関係を理解している。	生命の誕生に関する仮説を立てられる。 DNAワールドの成立について説明できる。 オゾン層が成立した理由を説明できる。 細胞内共生説を説明できる。 突然変異と形質との関係を見出せる。	生命誕生のしくみを考えようとしている。 地球環境変化の理由を考察しようとしている。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	4月～5月・中間考査
3 進化のしくみ 3節 生物の系統と進化 1 生物の系統と進化 2 人類の系統と進化	生物の遺伝情報に関する資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見出して理解する。 霊長類に関する資料に基づいて、人類の系統と進化を形態的特徴などと関連づけて理解する。	染色体構成と性決定について理解している。 遺伝に関わる用語を理解している。 有性生殖と無性生殖の違いを理解している。 減数分裂の過程を理解している。 自然選択と遺伝的浮動について理解している。 種分化の過程を理解している。 3ドメインの違いを理解している。 分子系統樹について理解している。 人類進化の過程について理解している。	染色体構成と遺伝子の関係を説明できる。 減数分裂と遺伝子の関係を説明できる。 独立と連鎖の違いを説明できる。 進化のしくみを説明できる。 資料に基づき系統樹を作成できる。 3ドメイン説が提唱された理由を説明できる。 資料に基づき人類進化の道筋を考察できる。	進化を遺伝子の面から考察しようとしている。 生物の系統に興味を持ち考察しようとする。 人類の系統と進化について調べようとしている。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	5月～7月・期末考査
4章 生物の環境応答 1節 動物の反応 1 刺激の受容 2 ニューロンと興奮 3 神経系の働き	刺激の受容と反応に関する資料に基づいて、外界の刺激を受容し神経系の働きと関連づけて理解する。	人が受容する刺激を理解している。 眼の構造としくみを理解している。 耳の構造としくみを理解している。 活動電位が発生するしくみを理解している。 刺激の強さを伝えるしくみを理解している。	実験に基づき盲斑の存在を推論できる。 暗順応のしくみを説明できる。 遠近調節のしくみを説明できる。 音を感じるしくみを説明できる。	行動と神経系の働きを関連づけようとしている。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	9月～10月・中間考査
4 刺激に対する反応 2節 動物の行動 1 生得的行動 2 習得的行動	動物の行動に関する資料に基づいて、行動を神経系の働きと関連づけて理解する。	刺激の強さを伝えるしくみを理解している。 興奮伝達のしくみを理解している。 脳や脊髄の構造を理解している。 筋肉が収縮するしくみを理解している。 生得的行動と習得的行動の違いを理解している。 行動と神経系の関係を理解している。	興奮発生とチャネルの関係を推論できる。 シナプスの可塑性を推論できる。 実験に基づき行動の特徴を見出せる。	環境応答のしくみを見出そうとしている。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	10月～12月・期末考査
3節 植物の成長と環境応答 1 植物の一生と環境応答 2 植物の成長 3 開花・結実の調節 4 その他の環境応答 5 被子植物の受精と発生	植物の環境応答に関する観察、実験などを行い、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見出して理解する。 資料に基づいて、花芽形成のしくみや花芽を分化セル遺伝子のはたらきを見出して理解する。	植物がどんな応答をするか理解している。 光受容体の動きを理解している。 植物ホルモンについて理解している。 屈性のしくみを理解している。 光周性のしくみを理解している。 花芽形成と遺伝子の関係を理解している。 発芽調節について理解している。 被子植物の受精のしくみを理解している。	実験に基づき植物ホルモンの存在を考察できる。 実験に基づき屈性のしくみを考察できる。 資料から光周性の存在に気づくことができる。 資料に基づき花芽形成のしくみを考察できる。 実験からABCモデルを導くことができる。	植物の環境応答について調べようとしている。 環境応答のしくみを見出そうとしている。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	2	教科書(出版社)	物理 (数研出版)
科目	物理α	必修・選択	必修選択	副教材等	リードα (数研出版), 新課程版2026セミナー物理基礎+物理 (第一学習社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

物理的な事象・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事象・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身につける。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第3編 波 第1章 波の性質	1.波と媒質の運動 2.波の伝わり方	<ul style="list-style-type: none"> 波の発生原理や基本事項を理解している。 縦波と横波の違いを理解している。 縦波を横波の形で表現できている。 縦波と横波の違いについて認識して、波を発生させることができる。 定在波の生じるしくみを理解している。 ウェーブマシンの実験・観察を通して、波の重ねあわせの原理や自由端・固定端での波の反射について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 波の基本事項について説明できる。 与えられた情報を正しく読み取り、問いに答えられている。 定在波を発生させる条件を正しく理解し、説明できる。 固定端と自由端での波の反射について、その違いを明確に説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。 横波と縦波の実験に主体的に取り組んでいる。 波が衝突や反射するときのようになるか、興味を持って、自分の考えを述べることができる。 	4月～5月・中間考查
第2章 音	1.音の性質 2.発音体の振動と共振・共鳴 3.音の伝わり方 4.音のドップラー効果 5.正弦波の式	<ul style="list-style-type: none"> 弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解している。 気柱共鳴装置を用い、気柱の共鳴音からおんさの振動数を求めることができ、理解できている。 ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。 位相のずれや進行方向の違いなども考慮して、正弦波の式を正しく表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 弦楽器の音にはどのようなことが関係しているかを、これまでの学習内容を踏まえて考えることができる。 気温と管楽器からの音の振動数にはどのような関係があるかを考察し、説明できる。 運動している音源から出た音の波長が、音源の前と後でどのように変化するかを説明することができる。 観測者が動く場合（音源は静止）のドップラー効果がなぜ起きるか説明することができる。 正弦波の式に$x=0$、$t=2T$を代入した式について、それぞれが何を表す式かを説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 弦楽器や管楽器について、どのようにして音の高さを変えているかについて、自分の考えを述べるができる。 音に関する問いかけについて、自分の言葉で表そうとしている。 弦や気柱の振動の実験や、振り子の共振の実験において、主体的に取り組んでいる。 身近な現象である音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとしている。 ドップラー効果の実験に主体的に取り組んでいる。 正弦波を数式で表す方法について理解しようとしている。 	6月～7月・期末考查
第3章 光	1.光の性質 2.レンズと鏡 3.光の干渉と回折	<ul style="list-style-type: none"> 光は進んでいくとき、反射、屈折、分散、散乱を行うこと、またその際にどのような法則が成り立っているかを理解している。 屈折の法則を利用して、ガラスの屈折率を測定できている。 レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。 ヤングの実験、回折格子、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。 複スリットを作成し、それにレーザー光を当てて干渉縞を確認できる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリズムで白色光が分散する理由を説明することができる。 晴れた日の昼の空が青く、夕焼けが赤く見える理由を説明することができる。 鏡に全身が映るための条件を考えることができる。 回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の変化を考えることができる。 ヤングの実験で光が強めあうときの条件を説明することができる。 媒質の屈折率と光路長の関係を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 光が関係する現象に興味をもち、光についての基本事項と光の進み方について理解しようとしている。 屈折率の測定の実験、光の散乱の実験に主体的に取り組んでいる。 レンズや鏡に興味をもち、それによってどのような像ができるかについて理解しようとしている。 しゃぼん玉やCD・DVDが色づいて見えることについて興味をもち、光の干渉や回折の現象を理解しようとしている。 	9月～10月・中間考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	保健体育	履修学年	2	教科書(出版社)	新高等保健体育k改訂版 (大修館)
科目	体育	必修・選択	必修	副教材等	なし
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にしようとしている。</p>

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
体づくり運動	<p>(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てること。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと。</p> <p>イ 実生活に生かす運動の計画では、自己のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むこと。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・体づくり運動では、自己のねらいに応じて、効果的な成果を得るための適切な運動の行い方があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>・生活様式や体力の程度を踏まえ、自己のねらいに応じた運動の計画を立案している。</p> <p>・体づくり運動の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>・体づくり運動の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</p> <p>・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。</p>	1 学期
器械運動	<p>(1) 次の運動について、技がよりよくできたり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。</p> <p>ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 器械運動に主体的に取り組むとともに、よい演技を繰返えようとし、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとし、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・器械運動では、技の系、技群、グループの系統性の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・器械運動の種目によって必要な体力要素があり、その種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・マット運動 新たに学習する基本的な技の一連の動きを滑らかに安定させて回ることができる。</p>	<p>・選択した技の行い方や技の組合せ方について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘することについて、自己の活動を振り返っている。</p> <p>・練習や演技の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方とその理由を仲間に伝えている。</p>	<p>・器械運動の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・自己の状況にかかわらず、よい演技を繰返えようとしている。</p>	1 学期
サッカー	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>ア ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすること。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし、合意形成に貢献しようとし、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとし、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>・球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすることができる。</p>	<p>・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点について、自己の考えを伝えている。</p> <p>・チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付け、仲間に伝えている。</p>	<p>・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。</p>	1 学期

水泳	<p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争及び自己や仲間の課題を解決するなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、自己に適した泳法の効率を高めて泳ぐこと。</p> <p>ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、伸びのある動作と安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。</p> <p>イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、伸びのある動作と安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。</p> <p>ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。</p> <p>エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。</p> <p>オ 複数の泳法で長く泳ぐこと又はリレーをすること。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 水泳に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳では、各種目や運動の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、効率のよい泳ぎにつながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ・水泳の種目によって必要な体力要素があり、その種目の技能に関連させながら体力を高めることができる。 ・流線型の姿勢を維持して、しなやかでリズムミカルなキックを打つことができる。 ・抵抗の少ない肩幅程度の足の引き付けから、足先を外側にして直ちにキックをすることができる。 ・水平姿勢を維持しながら泳ぐことができる。 ・体のうねり動作に合わせたしなやかなドルフィンキックをすることができる。 ・各泳法に適した準備の姿勢から、スタートの合図と同時に力強く蹴りだし、抵抗の少ない姿勢で進行方向に体を伸ばすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した泳法について、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点とその理由を仲間に伝えている。 ・課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見している。 ・自己や仲間の課題を解決するための練習の計画を立てることについて振り返っている。 ・練習や競技会などの場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ・水泳の事故防止の心得を遵守し、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。 	1・2学期
バレーボール	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法について、学習した具体例を挙げている。 ・チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点について、自己の考えを伝えている。 ・チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 	2学期
テニス	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法について、学習した具体例を挙げている。 ・ボールを相手側のコートに守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点について、自己の考えを伝えている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に主体的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 	1・2学期

<p>体育理論</p>	<p>(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p>	<p>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解している。</p>	<p>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。</p>	<p>・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>2・3 学期</p>
<p>陸上競技（長距離走）</p>	<p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>ア 長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。</p> <p>(2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>・陸上競技では、各種目の局面ごとに技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的な練習の仕方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ることができる。</p>	<p>・練習や競技会の場面で、自己や仲間の活動を振り返り、よりよいルールやマナーについて、自己の活動を振り返っている。</p> <p>・選択した運動種目について、自己や仲間の動きを分析して良い点や修正点とその理由を仲間に伝えている。</p>	<p>・陸上競技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</p>	<p>2・3 学期</p>

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	保健体育	履修学年	2	教科書(出版社)	新高等保健体育改訂版(大修館)
科目	保健	必修・選択	必修	副教材等	なし
単位数	1				

1 学習の到達目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
学習内容について、理解したことを言ったり書いたりしている。	学習内容に関する課題を発見し、解決方法などを話し合い、筋道を立てて説明している。	課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<ul style="list-style-type: none"> ・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・妊娠・出産と健康 ・家族計画 ・加齢と健康 ・高齢社会に対応した取り組み 	<p>生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。</p> <p>(7) 生涯の各段階における健康</p> <p>生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもち、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言った 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 	1 学期・期末考査
<ul style="list-style-type: none"> ・働くことと健康 ・労働災害の防止 ・働く人の健康づくり ・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・健康被害を防ぐための環境対策 ・環境衛生に関わる活動 ・食品の安全性と健康 ・食品の安全性を確保する取り組み ・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・様々な保健活動や対策 ・誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり 	<p>(4) 労働と健康</p> <p>労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をすることが必要であること。</p> <p>健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。</p> <p>(7) 環境と健康</p> <p>人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。ま</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ・環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ・食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害と健康、環境と健康、食品と健康、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関、様々な保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 	

	<p>た、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていること。</p> <p>(f) 食品と健康</p> <p>食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていること。</p> <p>(g) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</p> <p>生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。</p> <p>また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。</p> <p>(h) 様々な保健活動や社会的対策</p> <p>我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていること。</p> <p>(i) 健康に関する環境づくりと社会参加</p> <p>自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした、健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>"・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用方法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることに、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<p>けたりして、自他や社会の課題を発見している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。 ・様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。 		2 学 期 ・ 期 末 考 査
課題研究 研究発表	<p>研究課題決め 資料収集 文献検索 実験・実地調査 発表資料作成 レポート作成 1人8分以内で発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関連する先行研究の文献や資料を丹念に調べており、研究に関する広範囲な情報を得ている。 ・データ収集、分析、原稿作成などの実施時期や方法を進んで調べ、研究を主体的に進捗させている。 ・豊富な先行研究を踏まえたうえで、調べた資料やデータから独創性のあるアイデアを導き出している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。 ・生涯を通じる健康や健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会や安全な社会生活について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 ・生涯を通じる健康や健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 	2 ・ 3 学 期

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	芸術	履修学年	2	教科書(出版社)	高校生の音楽1(教育芸術社)
科目	音楽 I	必修・選択	必修選択	副教材等	プリント
単位数	2				

1 学習の到達目標

歌唱、器楽、鑑賞などの幅広い音楽活動を通して、音楽の多様性について理解して興味・関心・知識を高める。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技術を身に付けて感性を高めていくとともに、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
創意工夫した音楽表現に必要な技術を身に付け、音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを理解出来たか。	自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながら美しさを自ら味わうことが出来るか。	音楽を愛好する心情を育み感性を高め、音楽文化と積極的に関わる事が出来ているか。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
発声の基本 イタリア語の歌 楽典	校歌 "O sole mio Caro mio ben Santa Lucia 楽典	きちんとした呼吸法を身に付け、無理のないきれいな発声で歌うことが出来る。音楽の構造や背景を理解して歌っているか。	自己のイメージを持って音楽表現を工夫しながら、その音楽の意味や価値などを評価して歌っているか。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む、感性を高め、音楽文化に積極的に関わり、音楽を愛好する心情を育む努力をしているか。	4月～5月・中間考査
鑑賞 ドイツ語の歌 実技テスト(歌唱)	ポレロ Heidenröslein(シュベール) Heidenröslein(ゲーター) イタリアの歌	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解して、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能を身に付けることが出来たか。	自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫するために、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、表現力を高めているか。	音楽文化に親しみ、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むために、主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組んでいるか。	5月～7月・期末考査
日本の歌 混声合唱	この道 翼 ほしとたんぼぼ An die Freude 大地讃頌	その音楽固有の雰囲気や表情、味わいなどを感じ取りながら、自己のイメージや感情と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを捉え、理解することが出来たか。	音や音楽に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感しながら、どのように音楽で表現するかについて表現意図を持つことが出来たか。	一人一人が自らの考えを他者と交流したり、互いの気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感したりしながら個々の学びを深められたか。	9月～10月・中間考査
混声合唱 楽典 実技テスト(歌唱)	生徒の実力にあった混声四部合唱曲 和音について 合唱曲	個々の音楽の特徴を捉え、さらに複数の音楽を比較したり関連付けたりするなどして、それぞれの音楽の共通性や固有性を捉え、理解することが出来る様になったか。	これまでの音楽科での学習を基礎にしつつ、新たに習得した知識や技能、経験などを踏まえて音楽表現に対する自己のイメージを一層豊かに表現意図を明確に出来たか。	音楽活動を通して、音や音楽のよさや美しさなどを感じるとともに、表現意図をもって音楽で表したり、味わって聴いたりする力を育成できたか。	10月～12月・期末考査
器楽 日本の伝統音楽 実技テスト	キーボード メヌエット 能楽 文楽 歌舞伎 キーボード	音楽を形づくっている要素の働きについて実感を持って理解したり、音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解できたか。	既習の音楽を基礎にして、主体的に音楽に関わり、音楽のよさや美しさを味わっていくために、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図ることができたか。	生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むために、音楽が醸し出す質的な世界を認識し、音楽だけではなく、あらゆるもののよさや美しさを感じる活動ができたか。	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	芸術	履修学年	2	教科書(出版社)	美術1(美村図書)
科目	美術 I	必修・選択	必修選択	副教材等	
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>芸術の幅広い視点から、美術において造形的な見方、考え方を働かせて、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに幅広く関わる資質、能力を育成することを目指す。</p>
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
表現題材における内容を美的体験を通して、具体的に表現することを身につけている。	表現題材における課題を自ら発見し、発想や構想を具体的な表現へと解決する力を身につけている。	美術文化と幅広く関わり、造形的な見方、考え方を働かせ、主体的に表現制作に取り組む態度を身につけている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
・鉛筆デッサン 「私の手」	<ul style="list-style-type: none"> 自分の手をデッサンすることによって、人体の美しい造形を理解する。 絵画における空間の意味を理解する。 鉛筆とネリ消しを用いて空間を表現する技術を習得する。 	自分の手の特徴や美しさを基に形や質感をとらえ、空間を鉛筆で表現する技能を身につけている。	自分の手の特徴や美しさを基に形や質感をとらえ、空間を鉛筆で表現する発想、構想を身につけている。	自分の身体の特徴や美しさに気付き、鉛筆デッサンの表現制作に主体的に取り組む態度を身につけている。	4月～5月
・ポスター 「自己PRポスター」	<ul style="list-style-type: none"> ポスターの持つメッセージ性や社会性を理解する。 「自己PRポスター」の学習を通して、イラストレーションやフォントの美しさに気付き、アクリルガッシュで表現する技法を習得する。 	伝えたいメッセージを形や色彩、写真やイラストレーション、文字などによる伝達効果を考え、アクリルガッシュで表現する技能を身につけている。	伝えたいメッセージを形や色彩、写真やイラストレーション、文字などによる伝達効果を考え、アクリルガッシュで表現する発想、構想を身につけている。	伝えたいメッセージを形や色彩、写真やイラストレーション、文字などによる伝達効果を考え、アクリルガッシュでの表現制作に主体的に取り組む態度を身につけている。	6月～7月
・デザイン 「ポテトチップスパッケージデザイン」	<ul style="list-style-type: none"> 美しく機能的なパッケージデザインの有様を理解する。 愛されるキャラクターをデザインして理解する。 「ポテトチップスパッケージデザイン」の学習を通して、いろいろなアクリルガッシュの技法を習得する。 	商品のイメージを基に、形や色彩などの効果を考え、美しく機能的なパッケージデザインをアクリルガッシュで表現する技能を身につけている。	商品のイメージを基に、形や色彩などの効果を考え、美しく機能的なパッケージデザインをアクリルガッシュで表現する発想、構想を身につけている。	暮らしの中の使うデザインの有様を理解するとともに、パッケージデザインの表現制作に主体的に取り組む態度を身につけている。	9月～10月
・現代美術 「オブジェ」	<ul style="list-style-type: none"> 現代で生まれた現代アートをその発生から学び、意味を理解する。 空カンを使い、実際にオブジェを表現することで現代アートの意味を理解する。 	現代アートの意味を理解して、空カンのもつ日常合理的意識を破壊して、いろいろな道具を使い、空カンに新しい価値を見出し表現する技能を身につけている。	現代アートの意味を理解して、空カンのもつ日常合理的意識を破壊して、いろいろな道具を使い、空カンに新しい価値を見出し表現する発想、構想を身につけている。	現代アートの意味を理解して、空カンのもつ日常合理的意識を破壊して、いろいろな道具を使い、空カンに新しい価値を見出し主体的に表現し、取り組む態度を身につけている。	11月～12月
・石膏デッサン	<ul style="list-style-type: none"> 絵画における空間の意味を理解する。 量・面の意識、面の意識をもち石膏デッサンする。 石膏デザインから人体につながるムーブマン(動勢)を理解する。 	量と面の意識をもち、石膏像のムーブマンをとらえ、鉛筆で表現する技能を身につけている。	量と面の意識をもち、石膏像のムーブマンをとらえ、鉛筆で表現する発想、構想を身につけている。	石膏像の原作者や、その時代背景にまで思いを馳せ、主体的に石膏デザインに取り組む態度を身につけている。	1月～3月

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	外国語(英語)	履修学年	2	教科書(出版社)	LANDMARK English Communication II (啓林館)
科目	英語コミュニケーションII	必修・選択	必修	副教材等	LANDMARK English Communication II WORKBOOK(啓林館)、速読英単語必修編(Z会)、ALL EARS STANDARD(美誠社)、Reading Forward Orange(エミル)、Cutting Edge Green(エミル)
単位数	4				

1 学習の到達目標

①様々な形式の英語の文章を読んだり、聞いたりして、要点を捉えることができる。
 ②大学入試で通用する語彙や表現を身につけ、話すこと、書くこと、よって要約したり、自らの考えを表現することができる。
 ③英語でのコミュニケーションにおいて、どんな内容でも自分の言葉で言い換えたり、聞き直したりして、相手とのやり取りを続けることができる。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
英語の特徴やさまりに関する事項を理解している。日常的な話題や社会的な問題についての文章を聞いたり読んだりして、その内容を捉える技能を身につけている。また、その内容について自分の意見を話したり、書いたり、伝えあったりする技能を身につけている。	日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞いたり読んだりして、話の展開や話し手の意図・概要・要点・詳細を捉えている。また、その内容について自分の意見を話したり、書いたり、伝えあったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的・自律的に英語で話されることについて、聞いたり、読んだり、書いたり、話したり、伝えあったりしようとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
Lesson 1 : A Swedish Girl's Discoveries in Japan Lesson 2 : A Message from the Emperor Penguins	Lesson1:海外の視点から見た日本の不思議について書かれた文章、Lesson2:コウテイペンギンの生態と地球温暖化との関係に関する文章を読み、新出語彙や表現に慣れ親しみ、自らも同様に表現する。また、本文の内容を自分の言葉で要約することで他者に伝えたり、本文のテーマについて他者と意見を英語でやりとりする。	・海外の視点から見た日本の不思議について書かれた文章を読み、補語になる分詞のSVOC (Cが分詞)と補語になる分詞のSVOC (Cが分詞)の意味や構造を理解している。また必要な情報を読み取り、要点や詳細を把握している。 ・コウテイペンギンの生態について書かれた文章を読み、比較級を使用した最上級の表現や未来完了形、比較を使用した構文の意味や構造を理解している。また必要な情報を読み取り、要点を把握している。	・海外の視点から見た日本の不思議について書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。 ・コウテイペンギンの生態について書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。	・自分が驚いた日本の文化について、その情報を取り扱うようしている。また、そこで得た情報を元に、自分の考えを話したり、書いたりする方法でやりとりしようとしている。 ・気候変動の影響により絶滅の危機にある動物について、情報や自分の考えを論理性に注意して詳しく話したり、書いたりして、伝えようとしている。	4月～5月・中間考査
Lesson 3 : Tokyo's Seven-minute Miracle Lesson 4 : Seeds for the Future	Lesson3:東京駅の新幹線清掃チームの活躍に関する文章、Lesson4:在来種の種子を将来に残そうとする高校生を取り組みに関する文章を読み、新出語彙や表現に慣れ親しみ、自らも同様に表現する。また、本文の内容を自分の言葉で要約することで他者に伝えたり、本文のテーマについて他者と意見を英語でやりとりする。	・新幹線の清掃員の仕事の様子とその仕事に対する考えについて書かれた文章を読み、要点を理解し、また、強調のための倒置やto不定詞と共に使われる形式目的語のit、節と共に使われる形式目的語のitの意味や構造を把握している。 ・タネの保全のための取り組みについて書かれた文章を読み、付帯状況を表すwith + O + aや使役動詞の意味や構造を理解している。また文章から必要な情報を読み取り、要点を把握している。	・新幹線の清掃員の仕事の様子とその仕事に対する考えについて書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。 ・タネの保全のための取り組みについて書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。	・先進的な日本の技術や製品について、情報や自分の考えを論理性に注意して詳しく話して伝えようやりとりしようとしている。 ・固定種の利点についてF1種と比較しながら、情報や自分の考えを詳しく話したり、書いたりして、伝えようとしている。	5月～7月・期末考査
Lesson 5 : Language Change over Time Lesson 6 : Gaudi and His Messenger	Lesson5:言語の様々な要因による変化に関する文章、Lesson6:ガウディとサグラダ・ファミリアの彫刻を手掛けた日本人に関する文章を読み、新出語彙や表現に慣れ親しみ、自らも同様に表現する。また、本文の内容を自分の言葉で要約することで他者に伝えたり、本文のテーマについて他者と意見を英語でやりとりする。	・時間とともに変化する言葉について書かれた文章を読み、感想・意見・理由などを尋ねる疑問詞で始まる疑問文、同格のthatの意味や構造を理解している。また文章から必要な情報を読み取り、要点を把握している。 ・ガウディと外尾悦郎さんについて書かれた文章を読み、受動態の分詞構文やifを使わない仮定法の意味や構造を理解している。また文章から必要な情報を読み取り、要点を把握している。	・時間とともに変化する言葉について書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。 ・ガウディと外尾悦郎さんについて書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。	・英語または日本語にける言葉の変化の実例について、情報や考えを論理性に注意して話して伝えようやりとりしようとしている。 ・ガウディ、もしくは外尾悦郎さんについて、情報や自分の考えを論理性に注意して詳しく話して伝えようやりとりしようとしている。	9月～10月・中間考査
Lesson 7 : Letters from a Battlefield Lesson 8 : Edo: A Sustainable Society	Lesson7:戦時中に硫黄島から送られた栗林忠道の手紙に関する文章、Lesson8:江戸時代の循環型社会に関する文章を読み、新出語彙や表現に慣れ親しみ、自らも同様に表現する。また、本文の内容を自分の言葉で要約することで他者に伝えたり、本文のテーマについて他者と意見を英語でやりとりする。	・戦場からの手紙について書かれた文章から必要な情報を取り、副詞節を導く複合関係代名詞や完了不定詞の意味や働きを理解している。また文章から必要な情報を取り、要点を把握している。 ・江戸時代の持続可能な社会について書かれた文章を読み、注意すべき関係代名詞の用法や独立分詞構文の意味や働きを理解している。また文章から必要な情報を取り、要点を把握している。	・戦場からの手紙について書かれた文章から必要な情報を取り、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。 ・江戸時代の持続可能な社会について書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。	・戦場からの手紙について書かれた文章を読んだ感想について、自分の考えを論理性に注意して詳しく話して伝えようやりとりしようとしている。 ・日常生活の中で「もったいない」と思うことについて、情報や自分の考えを詳しく話したり、書いたりして、伝えようとしている。	10月～12月・期末考査
Lesson 9 : Biodiesel Adventure: From Global to Global Lesson 10 : Our Future with AI	Lesson9:廃油からエネルギーを精製して世界一周したフットジャーナリストの活動に関する文章、Lesson10:人工知能(AI)の活用と広まりとその影響に関する文章を読み、新出語彙や表現に慣れ親しみ、自らも同様に表現する。また、本文の内容を自分の言葉で要約することで他者に伝えたり、本文のテーマについて他者と意見を英語でやりとりする。	・山田周生さんの取り組みについて書かれた文章を読み、完了形の分詞構文や強調構文の意味や働きを理解している。また文章から必要な情報を取り、要点を把握している。 ・AIとその活用について書かれた文章を読み、過去についての推量やas ifを使った仮定法の意味や働きを理解している。また文章から必要な情報を取り、要点を把握している。	・山田周生さんの取り組みについて書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。 ・AIその活用について書かれた文章を読み、話の展開や意図・概要・詳細を捉えている。	・日本のエネルギー消費における問題点とその解決策について、情報や自分の考えを詳しく話したり、書いたりして、伝えようとしている。 ・人間とAIの共存のためにどのような法律が必要か、情報や自分の考えを詳しく話したり、書いたりして、伝えようとしている。	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	外国語(英語)	履修学年	2	教科書(出版社)	Vision Quest English Logic and Expression II Hope (啓林館)
科目	論理・表現Ⅱ	必修・選択	必修	副教材等	英文法・語法 Vintage 4th Edition 文法編 準備問題集 Canvas 英語の構文80
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>(1) 話す(口頭・筆記) 日時的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の文脈を把握すれば、ディベートやディスカッションなどの議論を導き、意見を述べたりすることを活用しながら、準備段階や文脈を用いて、自分の主張、論議の筋道などを論議の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(2) 読む(口頭) 日時的・社会的な話題について、使用する語句や文、事象の準備などにおいて、一定の文脈を把握すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの演説を聞いて、関心や理解を深めたりすることを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論議の構成や展開を工夫して詳しく話し伝えて伝え合うことができるようにする。</p> <p>(3) 書く(口頭) 日時的・社会的な話題について、使用する語句や文、事象の準備などにおいて、一定の文脈を把握すれば、関心や理解を深めたりすることを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論議の構成や展開を工夫して詳しく話し伝えて伝え合うことができるようにする。</p>
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
<p>知識 英語の特徴や書きやすさに関する事項及びその働きや役割を理解する。</p> <p>技能 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論議の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付ける。</p>	<p>目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論議の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合う。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現する。</p>

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<p>Lesson 1 What is your future goal?</p> <p>Lesson 2 What school events do you have?</p> <p>Activity 1 Interview</p>	<p>適切な主語を用いる 文と文をつなぐ</p> <p>適切な動詞を用いる パラグラフの基本構成(列挙・順序)</p> <p>インタビューに迅速な対応をする</p>	<p>子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解する。また、学校で新しい友達を作る方法について書かれた文章を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解する。</p>	<p>主語の選択や主語になる名詞句、形式主語の概念を理解し、適切な文を組み立てる。また、自動詞と他動詞を使い分けたり、群動詞を適切に用いたりして文を組み立てる。</p>	<p>自分の目標と達成のために必要なことについて、文と文のつながりを意識して書いて伝えようとしている。また、留学生のために開催するイベントについて話した内容を英文で書いてまとめようとしている。また、設定された目的・場面・状況と、会話に必要な語句や表現を理解し、即興のインタビューで質問したり、答えようとしている。</p>	4月～5月・中間考査
<p>Build Up 1 名詞と冠詞</p> <p>Lesson 3 Who is the best athlete?</p> <p>Lesson 4 Is social media safe?</p> <p>Activity 2 Negotiation</p>	<p>時を表す パラグラフの基本構成(例示・追加)</p> <p>義務・必要・推量を表す パラグラフの基本構成(比較・対照)</p> <p>異なる意見を持つ人と話し合い、考えを変えさせる</p>	<p>スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解する。また、ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解する。</p>	<p>現在・過去・未来を表すために、適切な動詞の形や文の構造を用いる。また、義務・必要・推量を表すために、助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。</p>	<p>自分の好きなアスリートと業績について、パラグラフの構成に意識して詳しく書いて伝えようとしている。また、高校生のソーシャルメディアの使用について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝えようとしている。また、設定された異なる立場の意見や主張を理解し、会話に必要な語句や表現を用いて、お互いに交渉しながら会話を進めようとしている。</p>	5月～7月・期末考査
<p>Build Up 2 主語と動詞の呼応・時制の一致</p> <p>Lesson 5 How does overusing energy affect us?</p> <p>Lesson 6 What are some culture differences?</p> <p>Activity 3 Fact and Opinion</p> <p>Build Up 3 英語の情報構造</p> <p>Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English?</p>	<p>情報を加える(1) パラグラフの基本構成(原因・理由・結果)</p> <p>情報を加える(2) Citing information 主張や理由の根拠を示す</p> <p>発表に必要な情報を探し、事実と意見を区別する</p> <p>情報を加える(3) Summarizing(1) リーディングの要約</p>	<p>エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。また、異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解する。また、第2言語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解する。</p>	<p>形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。また、関係代名詞や関係副詞を用いた文の構造を理解し、文を組み立てる。また、形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。</p>	<p>環境問題の原因とその影響について情報を整理し、関心のある環境問題に対する意見や主張を話して伝えようとしている。また、外国人観光客が最も訪れる日本の場所について、情報を調べたりして、パラグラフの構成に意識して、自身の主張や理由の根拠を詳しく書いて伝えようとしている。また、日本の第二公用語としての英語の導入の賛否に関する記事を読んで、文章全体の概要と構成を理解し、まとめようとしている。また、地理の授業で地球規模問題について発表するために、事実と意見の違いを理解して正確に説明し、話して伝えようとしている。</p>	9月～10月・中間考査
<p>Lesson 8 Is Japan open enough?</p> <p>Activity 4 Compromise</p> <p>Build Up 4 前置詞</p> <p>Lesson 9 What if you were rich?</p> <p>Lesson 10 How might AI affect our lives?</p> <p>Activity 5 Research</p>	<p>情報を伝える Summarizing(2) リスニングの要約 他者と異なる意見について話し合い、妥協することで合意に達する</p> <p>仮定を表す スピーチ</p> <p>数量を表す プレゼンテーション</p> <p>歴史的情報を探し、仮定の状況を含めて発表する</p>	<p>日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解する。また、もし仮に長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解する。また、AIと共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解する。</p>	<p>相手に情報を伝えるために、直接話法、間接話法、また様々な伝達表現を用いて適切な文の形や構造を組み立てる。また、条件や仮定を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。また、可算名詞と不可算名詞の使い分けや数量を表す表現、割合・数量の変化を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。</p>	<p>2つの異なる働き方についての話を聞いて、全体の概要と構成を理解し、まとめて、自分が働きたい職場環境について、ペアやグループで議論しようとしている。また、幸くしが当たり、大金を手にしたという仮定の状況を想定し、自分の考えや主張をまとめたり、クラスメートと話して伝えたりして、スピーチの原稿を作成しようとしている。また、AIとの生活で大切な事について、自分の考えやその根拠を示す情報を調べるなどして、クラスに話して伝えるために、プレゼンテーションの原稿を作成しようとしている。また、歴史の授業で、技術の進歩について発表するために、自分の意見や主張の適切な根拠や具体例を調べようとしている。</p>	10月～12月・期末考査
<p>Build Up 5 ポライトネス</p> <p>Lesson 11 What is a healthy life?</p> <p>Lesson 12 What is important when we sell chocolate?</p> <p>Activity 6 Planning</p> <p>Build Up 6 コミュニケーションのためのストラテジー</p>	<p>比較を表す ディベート</p> <p>否定を表す ディスカッション</p> <p>提案のための最善の方法について話し合い、効果的な発表をする</p>	<p>健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解する。また、商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解する。</p>	<p>原級比較、比較級、最上級を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。また、否定を含む語や部分否定、半否定などの否定を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。</p>	<p>110代の若者は8～9時間の睡眠が必要だという議論について、賛否の意見を考え、詳しく書いてまとめようとしている。また、チョコレート売り上げを伸ばすために必要なことについて、自分の意見や主張を考え、根拠となる資料を示しながら、グループで話して伝えようとしている。また、食品会社の社員であるという設定をもとに、スーパーで販売する新しい健康食品を検討し、様々な観点から集めた情報をまとめ、クラスに提案を話して伝えようとしている。</p>	1月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	家庭	履修学年	2	教科書(出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)
科目	家庭基礎	必修・選択	必修	副教材等	なし
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>自分自身と家族の生活をより良くするため、実践的かつ体験的な学習を通して、他者と積極的に協力し、共に課題に取り組むことで、より良い社会の構築に主体的に貢献できる力を育成する。日常生活に必要な基礎知識や技能を習得し、日々の生活の中で課題を見出し、解決策を自ら考え、実行に移せる能力を養う。地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的に地域社会への参画を図ろうとする意識と態度を養う。</p>
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や理解、実技実習における基本的な技術の習得ができています。	習得した知識・技能を活用して問題を発見し課題を設定、解決できる思考力・判断力・表現力を身に付けています。	基礎的な知識・技能の習得から、思考力・判断力・表現力を身に付ける過程において、自ら積極的に考え実践し、粘り強く学習に取り組む、途中調査や完成を意識しながら学習を進めている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<p>家庭科の学び方、ホームプロジェクト【生活設計】 人生を展望する 【家族・家庭】 人生を作る、家族・家庭を見つめる 【保育】 命を育む、子どもの育つ力を知る、子どもと関わる 【食生活】 糖度測定、食生活の課題について考える、食生活と栄養・食品、生涯の健康を見通した食事計画</p>	<p>家庭科の学び方、年間の授業計画や流れを知り、主体的に取り組める意識を持つ。 ホームプロジェクトについて知り、自分の意見を文章にまとめる方法の理解。自分とは何か、青年期の課題と関連付けて他者の理解と共に自分を見つめる。家族家庭と社会制度について理解を深める。乳幼児の生活習慣や衣食住、心身の発達について理解する。パワースのよい食事の実現に向けて食品や栄養について理解を深める。糖度測定を行い、炭水化物についての理解を深める。</p>	<p>ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解している。自己と他者の理解、青年期の課題、家族や家庭について理解している。乳幼児の心身の発達について理解しようとしている。パワースのよい食事の実現のために栄養や食品について理解しようとしている。自身や家族の食生活の計画や管理、実践について知識や技能の習得をしようとしている。</p>	<p>自身や家族の生活上の問題点を見出し、課題を設定し解決策を構想し実践するなど課題解決能力を身に付けている。乳幼児の健やかな発達のために家族や社会の果たす役割について課題を設定し解決策を模索し、実践する評価など論理的に表現し問題解決能力を身に付けている。食生活について多角的な角度から課題を見つけ出し、解決について考え表現し、実践できる力を身に付けている。持続可能な食生活について常に意識を持って家庭内でも実践できる判断力が身に付けている。</p>	<p>様々な人々と協働し、よりよい家庭生活や社会構築に向けてホームプロジェクトを通して課題解決に主体的に取り組んだり、振り返りをしたり、地震や家族、地域社会の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。青年期の課題について考察し、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返りをしたり充実に向上を図るために実践しようとしている。</p>	4月～5月・中間考査
<p>【住生活】 住生活の変遷と住居の機能、平面計画と知恵、これからの住生活 【保育】 これからの保育環境</p>	<p>生涯を見通した住生活について考え、快適、健康、安全な住まいについて考える。環境に配慮した住居について考え、平面図を作成する。現代の子育て環境や子どもの権利と福祉について知り、これからの保育環境について考える。</p>	<p>ライフステージに応じた住生活の特徴を理解しようとしている。適切な住居の計画、管理に必要な知識と技能を習得しようとしている。子どもをお取り巻く社会支援について理解している。乳幼児の食事やアレルギーの危険性について理解している。</p>	<p>子ども食生活について課題を見つけ出し、解決について考え表現し、実践できる力を身に付けている。住居の機能や快適さについて必要な基礎的な知識と技術を持って問題を見出して解決策を構想し実践を評価して考察したことを表現するなど課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>様々な人々と協働し、よりよい家庭生活や社会構築に向けて課題解決に主体的に取り組んだり、振り返りをしたり自身や家族、地域社会の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。生涯の健康や環境に配慮した食生活と住生活について課題解決に主体的に取り組んだり、振り返りをしたり自身や家族、地域社会の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。</p>	5月～7月・期末考査
<p>【ホームプロジェクト(発表)】 【食生活】 食品の選択と安全、調理の基礎、食生活の文化と知恵、これからの食生活、調理実習、食文化</p>	<p>ホームプロジェクトについて知り、実践し、自分の意見を文章にまとめる方法の習得。発表することで表現力を身に付け言語活動を充実させる。安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工食品、食中毒や食物アレルギーの知恵を身に付ける。食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身に付ける。調理操作や加工により、美味しさが変化することを科学的にとらえる。</p>	<p>ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解している。食品の選択と安全や調理について理解している。食文化の継承や創造について理解している。</p>	<p>食品の調理上の性質について課題を設定し、解決策を模索し、実践を評価するなど論理的に表現し、問題解決能力を身に付けている。食文化の継承や創造について課題を設定し解決策を模索し、実践を評価するなど論理的に表現し問題を解決する。</p>	<p>様々な人々と協働し、よりよい食生活やに向けて課題解決に主体的に取り組んだり、振り返りをしたり自身や家族の食生活の生活向上を図るために実践しようとしている。</p>	9月～10月・中間考査
<p>【衣生活】 被服の役割を考える、被服を入手する、被服を管理する、衣生活の文化と知恵、これからの衣生活、コースター作り 【環境】 持続可能な社会を目指して</p>	<p>用途に合った着装を実践できるようにするため、被服の役割を理解する。現代に受け継がれる日本の伝統文化を引き継ぎ発展させるために日本の衣生活文化を継承し、知恵と技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。被服は何かからできているか知り、購入、着用、手入れ保管を知り、持続可能な衣生活について考える。</p>	<p>被服の役割、衣生活の文化と知恵、被服の入手入れ、これからの衣生活、持続可能な社会と生活について理解している。</p>	<p>被服の機能や快適性について課題を設定し解決策を模索し、実践を評価するなど論理的に表現し問題を解決する力を身に付けている。持続可能な社会を目指して主体的に行動できるように生活と消費について課題を設定し解決策を模索し、実践を評価するなど論理的に表現し問題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>衣生活について課題解決に主体的に取り組んだり、振り返りをしたり自身や家族、地域社会の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。</p>	10月～12月・期末考査
<p>【高齢者】 超高齢・大衆長寿社会の到来、高齢期の心身の特徴、これからの超高齢社会 【共生】 私たちの生活と福祉、社会保障の考え方、共に生きる 【経済生活】 情報収集・比較と意思決定 購入・支払いのルールと方法</p>	<p>超高齢社会の背景を理解する。高齢者について理解を深める。高齢期を支える社会の仕組みや課題について理解する。生涯安定した経済生活を営めるように経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。消費者保護制度について理解する。家計をマネジメントする力をつける。人生の目標を考えリスク管理や生活設計ができるようになる。一人の主体者として、また他利や社会全体について考える。</p>	<p>高齢者の特徴、取り巻く社会について理解しようとしている。消費者の権利と責任について契約の重要性を理解している。消費生活の現状と課題について理解している。</p>	<p>高齢者を支えるため社会の果たす役割について考察したことを論理的に表現するなど課題解決について考える力を身に付けている。生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について課題を設定し解決策を模索し、実践を評価するなど論理的に表現し問題を解決する力を身に付けている。責任ある消費者として課題を設定し解決策を模索し、実践を評価するなど論理的に表現し問題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>高齢期について考察し、課題解決に主体的に取り組んだり振り返りをしたり充実に向上を図るために実践するなどしようとしている。</p>	1月～3月・学年末考査